セカンドライフファクトリー通信

発行者
矢富直美
一般社団法人
セカンドライフ
ファクトリー

第緊急事態宣言に伴う活動の中止について

コロナ緊急事態宣言に伴い、セカンドライフファクトリーの活動を原則中止します。

脳トレ健康麻雀講座は当面の間、中止します

ＺＯＯＭによる活動は継続します。個々の活動については、お問い合わせください。

ＳＬＦ事務所の電話受付は月・水・金の１０時～１２時となります。

第７７回ＳＬＦ講演会のご案内（予告）

「日本型長寿食を考える（仮題）」

講師 消費生活アドバイザー（食品）
古橋　秀夫　氏

形式 ＺＯＯＭを使ったオンライン講演会

内容 健康長寿のための食について話していただきます。

日時 ３月２６日（金）
１０時～１１時３０分

参加方法 講演会はパソコン、スマホ、タブレットを使用したオンライン形式。生中継で行います。Ｗｅｂ会議アプリ「ＺＯＯＭ」を使用します。

費用 無料

主催 一般社団法人セカンドライフファクトリー（ＳＬＦ）

※お申込み・講演の詳細などは本紙次月号およびホームページでお知らせいたします。

連載 セカンドライフをどう生きる（第３１回）

今回は、地域で多くの人たちがセカンドライフを健康に生き抜くためには何をすればよいのか考えてみる。

前回まで、活動ニーズ調査から、地域の人々が健康で自立して生活するには、ウォーキング、無尽、ゴルフ、旅行、園芸・家庭菜園、食事会などの活動人口を増やすことが重要であると述べてきた。最も有効な方法は、これからその活動をしたいと思っている人たちに、きっかけとなる講演会、体験会などを催し、その活動を始めてもらうことである。しかし、それだけではなかなか活動人口は増えていかない。講演会、体験会などをやる前に準備しておきたいことがある。

その前に、地域のそうした活動を始める支援を行う主体はだれなのか、あるいは、どんな組織なのか、また、その活動を始める人たちとしてどんな人たちを想定しているのか、それらの要因によって何をどうすればよいのかが異なってくる。また、どのような地域特性を持った地域でそれを実行するのか、さらには、どのような大きさの地域でそれを行うのかでまたその方法が異なってくる。

ここでは、まず、地域特性について考えてみよう。筆者は東京都の２３区や多摩地区、千葉県のベッドタウン、山梨県の農村地帯などの自治体が行う介護予防事業を支援してきた。その経験から、住民の活動人口を増やしていく事業に係る要因として住民の持つソーシャルネットワークのあり方が重要であるということを痛感した。たとえば、東京の武蔵野市。武蔵野市は、移住したい街のナンバーワンの吉祥寺を抱え、シニアが老後に移り住んでくる街として有名である。比較的近年に移り住んできた新参者の市民が多く、地域的な結合が弱い。すでに、住民の自治組織である町内会や自治会が消滅している。したがって、行政はそれらの住民地縁組織を活用できない。行政が介護予防の活動を立ち上げたいときには、直接、広報などで市民に参加を呼び掛ける手段がとられる。このような方法で、認知症予防プログラムに集まった市民には、武蔵野市に点在する大学の公開講座などの学習活動を通じて顔なじみになった人たちで、地縁的関係を持っていない人たちであった。こうした地域では、近隣の人たちとの気兼ねやしがらみがなく、活動の目的が一致していれば、新しい関係に入っていける。筆者は、こうした関係を「機能縁」と呼び、人口の流動性の高い地域の特徴と考えている。

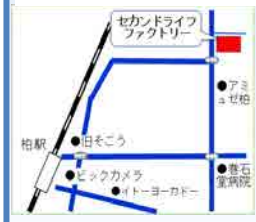
もう一つの典型として、住民の自治組織である町内会がまだ機能しているベッドタウン

（次ページに続く）

セカンドライフファクトリー（SLF）紹介

東大の生きがい就労研究に参加したシニアが作った法人です。地域の就労や仲間づくりの支援のために、講演会、講座、サロンなどの活動を行っています。

アクセス



柏駅東口より徒歩８分　アミュゼ柏と同じ並び市役所寄り、当ビル１階赤い看板の「はんこ屋さん21」が目印

住所・電話は下部青帯

プチカル柏の葉

新型コロナ感染拡大防止のため２月７日まで休業させていただきます

お問い合わせ等は、ホームページのお問い合わせフォーム、メール、留守番電話にて 対応させていただきます。

TEL
04-7100-8439
柏市柏の葉２－３－２７

プチカル柏の葉　検索

の例がある。東京近郊のベットタウンは、ほとんどの住民が高度成長期に流入してきた人たちで、30年ほどの在住期間が経っている。近隣同士の付き合いは、あいさつ程度の付き合いにとどめ、深入りせず他人に干渉されない自由な生活を享受したいという意識が強い。しかし、長く続いた地縁組織は脆弱ではあるが、そこへの帰属感は捨てられていない。このような地域では、できるだけそうした地縁組織に関わりたくないという心情から、組織の役員は、義務的な1年交代制になっていることが多い。そうした地縁組織は地域課題を解決する力はなく、お祭りなどの行事をこなしているだけの行事遂行組織になってしまう。そこで、

行政としては、こうした地域を代表する自治会や町内会などの地縁組織に地域課題の解決を担ってもらおうとするのであるが、地縁組織の方は、課題解決能力が低下しているので、また行政から無理難題を押し付けられるという被害意識を持っていることが多い。このような地域で地域課題の解決を何とかしたいという住民たちは、弱体化した地縁組織に代わる課題解決に専門的な組織を別建てで作ることになる。こうした地域での新しい課題解決のための活動組織の立ち上げには、自治会や町内会などのお墨付きを得た方がやりやすい。そうした地域では、従来型の地縁組織と問題解決組織が並立して相互に連携する形が生まれる。地域の介護予防、空き家対策、美化活動、助け合いなどがこのような枠組みで行われる。欠点は、その地域だけの問題解決にとどまって他の地域への拡大が制限されるということである。

もう一つの地域のタイプは、高度成長期以前に開発が行われた地域である。地縁組織は存在しても、機能不全の状態で形骸しているタイプ。こうした地縁組織では、リーダーが高齢化しており、旧態然とした運営に終始し、新しい事業への意欲がない。そこでは、新しい活動を立ち上げたい市民組織とは、協力関係が成立しない。むしろ、敵対的関係になってしまう場合が少なくない。

さらなるタイプとして、農村型の地縁組織が残っているところがある。昔のような村落共同体のような組織ではなくなっているが、住民は、現代的な自由な生活を望みながらも、近隣の人々と濃い人間関係に縛られている。何かにつけ、周りの目を気にしながら生活している。このような状況下では、その地域の人たちが経験したことのない新しい活動にはどうしてもブレーキがかかる。たとえば、田園地帯の道をウォーキンググループが楽しそうに歩いていると、農作業をしている人から見ると顰蹙を買うのではないかという恐れを感じるという住民がいるというのだ。お互いに顔見知りというネットワークが濃い農村には、都会では、ちょっと考えられないことが起こる。そこでこのような地域では、新しいことをするには、そうした地縁のしがらみのない離れた場所での活動に参加するというのがやりやすいということになる。

このように地域特性はさまざまで、その特性を考慮して、地域での活動を増やしていく仕組みを構築する必要があると考えるのだが、皆さんの住んでいる地域はどうであろうか。

（矢冨直美）

わいわいサロン会員募集

趣味や学習活動を仲間と一緒に楽しむサロンです。時間の都合がつくときだけの参加も歓迎です。参加費無料。ほとんどのサロンはＺＯＯＭで参加できます。

《サロン一覧》
- 楽しく終活を話そう！
- スマホを使おう！
- 写真を楽しもう！
- いつまでも勉強しよう！
- 投資を楽しもう！
- 手芸を楽しもう！
- 異文化交流サロン

お申込みは「セカンドライフファクトリー」まで

詳細は セカンドライフファクトリー 検索

冊子「認知症は予防できるか」を販売中

認知症予防を長年研究されてきた矢冨直美先生が認知症予防についてやさしく解説しています。300円。

お求めはセカンドライフファクトリーまで

広　告

庭木のお手入れは
SLFガーデンサポートへ
お見積り無料

安価で丁寧な仕事
庭木の改作を提案

TEL 04-7100-2839
http://slf-gardensupport.com/

暮らしの支援
えんがわ

生活のお手伝い

お掃除
お庭仕事
買い物代行
困りごと相談

TEL 04-7100-2839
http://kurashi-engawa.com/